

教育・研究業績書

講座名 精神神経医学		
＜教員の紹介＞		
教授 下田 和孝	講師 藤井 久彌子	
准教授 尾関 祐二		
講師 大曾根 彰		
講師 小杉 真一		
講師 佐伯 吉規		
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月	概要
① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）		
学生教育 1) 系統講義	2004年5月～現在	精神医学の歴史、精神科症状学、症状評価の基準、精神科的診断基準、種々の精神疾患（気分障害、統合失調症、不安障害、パーソナリティ障害、認知症など）、心理検査・症状評価法、治療（薬物治療・修正型電気痙攣療法などの身体的治療・精神療法的アプローチなど）・対応、精神保健福祉法などの精神科医療に必須の関連法令、精神科救急についての系統講義を行なった。系統講義では教科書的な一般的知識を網羅するとともに効果的な学習を促進するために具体的な症例・画像・検査所見の提示を行なうように心がけ、学習王を高める努力をした。
2) 医師国家試験対策	2004年5月～現在	全般的な精神医学的知識を獲得してもらうように講義を行なったが、特に睡眠障害・不安障害・児童思春期の精神医学的問題など最近トピックスになっている疾患については網羅するように心がけ、また、精神保健福祉法など関連法令のような実際の臨床上で非常に重要な点について強調して講義した。
3) 臨床実習（BSL）	2004年5月～現在	担当症例の病歴聴取、精神医学的症状の評価、身体症状の評価、精神医学的診断、治療計画立案などに担当医の指導の下、体験させた。

<p>卒業教育</p> <p>1) 研修医、レジデントの教育・指導</p> <p>2) 大学院教育、研究指導</p>	<p>2004年5月～現在</p> <p>2004年5月～現在</p>	<p>2年次の臨床研修医の必修科目として、研修していただいたが、気分障害・統合失調症・認知症のほか、大学病院精神科で体験できる身体合併症のある精神疾患を担当することによって、精神科以外の診療科目にも興味を持てるように心がけた。</p> <p>3, 4年次のレジデントには精神保健指定医取得のために精神保健福祉法に定められる症例を経験させるように心がけた。日本精神神経学会専門医の取得必要な症例を経験させるように心がけた。</p> <p>基本的に医局員には研究テーマを持つように指導し、学位の取得を目指すように指導してきた。精神神経薬理学・臨床薬理遺伝学・ゲノム薬理学・統合失調症の病因・治療関連遺伝子解析・精神疾患の症状評価および経過の追跡研究などが行なわれてきた。大学院生については研究テーマをまとめる際には国際的な雑誌(英文雑誌)に投稿することを促進・指導してきた。</p>
<p>② 作成した教科書、教材、参考書</p>		
<p>そこが知りたい 薬物療法Q&A</p> <p>睡眠覚醒リズム障害に対する高照度光療法 122-123</p> <p>睡眠障害診療のコツと落とし穴(編集:上島国利)、中山書店、2006</p> <p>抗精神病薬による遅発性錐体外路症状治療のアルゴリズム, 統合失調症の治療手順—薬物療法のアルゴリズム-改訂版(精神科薬物療法研究会編)、医学書院、73-93, 2006.</p>		<p>精神科薬物療法に関する具体的な疑問に対して文献的考察を加えて回答をするという形式のQ&A集</p> <p>睡眠障害診療全般に関する知見について概説した書物であるが、特に高照度光療法について詳述した。</p> <p>統合失調症の薬物療法のアルゴリズムについて概説した書物であるが、特に抗精神病薬による遅発性錐体外路症状に治療アルゴリズムについて詳述した。</p>

<p>CRCテキストブック 第2版 医学書院 7</p> <p>がん緩和ケア 必携ベッドサイドで役立つ癌緩和ケア マニュアル (編 東原正明) 振興医学出版社、2008</p> <p>臨床精神薬理学テキストブック (日本臨床精神神経薬理学会編) 薬物有害反応 星和書店 第2版 pp100-p110, 2008</p> <p>創薬育薬医療スタッフのための臨床試験テキストブック pp228-pp231 メディカルパブリケーションズ, 2009</p>		<p>日本臨床薬理学会・認定CRC制度においてテキストとして使用されている。</p> <p>緩和医療における精神医学的ケアについて記述した。</p> <p>臨床精神薬理学に関して全般的な知識を身に付けられるように編纂。日本臨床精神神経薬理学会・専門医制度においてテキストとして使用されている。</p> <p>臨床治験にかかわるあらゆる職種が使用するテキストであるが、精神科治療薬の治験の留意点について記述した。</p>
<p>③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項</p>		

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
精神神経医学	教授	下田 和孝	大学院の研究指導担当資格 有

Ⅱ 学会等および社会における主な活動

1988年7月～現在	精神衛生鑑定医（現・精神保健指定医）
1994年3月～現在	日本生物学的精神医学会会員（評議員・専門医）
1994年4月～現在	日本精神神経学会会員（評議員）
1987年3月～現在	日本神経精神薬理学会会員
1991年10月～現在	Pacific Rim Association for Clinical Pharmacogenetics（理事）
1991年11月～現在	日本臨床精神神経薬理学会会員（監事・評議員・専門医）
1995年4月～現在	日本臨床薬理学会会員（評議員・認定医）
1997年4月～現在	日本TDM学会会員
1998年11月～現在	日本サイコオンコロジー学会（世話人）
2001年5月～現在	日本総合病院精神医学会（専門医）
2003年9月～現在	日本スポーツ精神医学会会員（評議員）
2007年4月～現在	精神保健判定医（医療観察法）
2007年4月～現在	栃木県精神医療審査会委員

Ⅲ 研究活動

【学位論文】

【著書】

和文

1. そこが知りたい 薬物療法Q&A（編 染矢俊幸、下田和孝、渡部雄一郎）、星和書店、2006
2. 青木治亮、下田和孝、大川匡子：睡眠覚醒リズム障害に対する高照度光療法 122-123, 睡眠障害診療のコツと落とし穴（編集：上島国利）、中山書店、2006.
3. 渡邊 崇、下田和孝：臨床精神薬理学テキストブック（日本臨床精神神経薬理学会編） 薬物有害反応 星和書店 P99-109, 2006.
4. 森田幸代、下田和孝：疼痛以外の症状の緩和ケアの実際 精神的ケア 不安/不眠/抑うつ. がん緩和ケア 必携ベッサイドで役立つ癌緩和ケアマニュアル（編 東原正明） 振興医学出版社、2008.
5. 渡邊 崇、下田和孝：臨床精神薬理学テキストブック（日本臨床精神神経薬理学会編） 薬物有害反応. 星和書店 第2版 pp100-p110, 2008.
6. 下田和孝：第3章 臨床試験実施のプロセス 第24節 精神科領域の臨床試験の留意点. 創薬育薬医療スタッフのための臨床試験テキストブック pp228-pp231 メディカルパブリケーションズ, 2009.

【原著】

欧文

1. Y. Iwamitsu, K. Shimoda, H. Abe, T. Tani, M. Okawa, & R. Buck: The relationship between negative emotional suppression and emotional distress in breast cancer patients. Health Communication 18:201-215, 2005.
2. Y. Iwamitsu, K. Shimoda, H. Abe, T. Tani, M. Okawa, R. Buck: Anxiety, emotional suppression, and psychological distress before and after breast cancer diagnosis Psychosomatics, 46:19-24, 2005.
3. C. Reist, L. J. Albers, S. R. Marder, B. Williams-Jones, J. C. Wu, S. Mee, K. Shimoda, T. Someya, V. Ozdemir: Pharmacogenomic testing for aripiprazole and third-generation atypical antipsychotics: Strategies for next generation studies. Current Pharmacogenomics 3: 305-318, 2005.
3. M Ueda, G Hirokane, S Morita, M Okawa, T Watanabe, K Akiyama, K Shimoda: The impact of CYP2D6 genotypes on the plasma concentration of paroxetine in Japanese psychiatric patients, Progress in Neuropsychopharmacology & Biological Psychiatry 30:486-491, 2006.
4. A Saito, Y Fujikura-Ouchi, A Kuramasu, K Shimoda, K Akiyama, H Matsuoaka, and C Ito: Association study of putative promoter polymorphisms in the neuroplastin gene and schizophrenia Neuroscience Letter 411:168-73, 2006.
5. T Watanabe, M Ueda, Y Saeki, G Hirokane, S Morita, M Okawa, K Akiyama, and K Shimoda: High plasma concentrations of paroxetine impede clinical response in patients with panic disorder Therapeutic Drug Monitoring 29:40-44, 2007.

6. Saeki Y, Watanabe T, Ueda M, Saito A, Akiyama K, Inoue Y, Hirokane G, Morita S, Yamada N, Shimoda K
Genetic and pharmacokinetic factors affecting the initial pharmacotherapeutic effect of paroxetine in
Japanese patients with panic disorder European Journal of Clinical Pharmacology 65:685-91, 2009
DOI 10.1007/s00228-009-0633-8 Epub 2009 Mar 4.

【症例報告】

和文

1. 渡邊 崇、大曾根 彰、秋山一文、下田和孝:多剤併用からolanzapineに変更後、clonazepamの追加で遅発性ジストニアが改善した1例. 臨床精神薬理 11:1337-1342, 2008.
2. 渡邊 崇、上田幹人、鮎瀬 武、石黒 慎、佐伯吉規、下田和孝:パニック発作を呈した甲状腺機能低下症の1例. 精神科治療学 23:1013-1017, 2008.
3. 渡邊 崇、大曾根 彰、秋山一文、下田和孝:Quetiapineへの置換とfluvoxamineの減量により遅発性ジストニアが改善した1例. 臨床精神薬理 11:2311-2316, 2008.

【総 説】

和文

1. 下田和孝:喫煙による抗精神病薬の薬物動態変化. 日本神経精神薬理学雑誌 24 巻 2 号 Page67-70 (2004. 04) 日本神経精神薬理学雑誌 2004.
2. 室井 秀太、下田和孝:新しい抗うつ薬の臨床適応. 臨床薬理 37:259-263, 2006.
3. 上田幹人、下田和孝:新しい抗うつ薬の薬理作用の特徴. 臨床薬理 37:255-258, 2006.
4. 上田幹人、下田和孝:特集/ベンゾジアゼピン系薬物の功罪 6. ベンゾジアゼピンの奇異反応. 臨床精神医学 35:1663-1666, 2006
5. 室井 秀太、下田和孝:新規抗うつ薬のうつ病以外への臨床適応. Mebio 24:93-99, 2007.
6. 渡邊 崇、上田幹人、佐伯吉規、下田和孝:不安障害のオーダーメイド薬物療法の可能性 パニック障害を中心に. 精神神経学雑誌 110:633-638, 2008.

【その他】

教育・研究業績書

講座名 精神神経医学	職名 准教授	氏名 尾関 祐二	大学院の研究指導担当資格 有
---------------	-----------	-------------	----------------

II 学会等および社会における主な活動

1994年3月～現在	日本生物学的精神医学会員
1999年6月～現在	日本睡眠学会員
1999年11月～現在	精神保健指定医 取得 (登録番号: 11291)
1999年～現在	日本時間生物学会員
2001年2月～現在	Society for Neuroscience
2001年7月～現在	日本精神神経学会員
2003年7月～現在	日本総合病院精神科学会員
2003年7月～現在	文部科学省地域貢献特別支援事業 精神障害者支援グループ 委員
2003年1月 ～2005年3月	日本総合病院精神医学会 電気けいれん療法講習会受講
2006年4月～9月	滋賀県大津市 障害者自立支援事業 審査委員
2007年10月～現在	日本精神神経学会 精神科専門医 取得 (会員番号 11933)
2007年10月～現在	日本精神神経学会 精神科専門医 指導医 登録
2009年3月～現在	栃木県地方精神保健福祉審議会 委員

III 研究活動

【学位論文】

【著 書】

和文

1. 尾関祐二: 第3章 診断検査. 樋口輝彦 編, うつ病診療Q and A 日本医事新報社, pp 64-83, 2009.

【原 著】

欧文

1. Takano A, Uchiyama M, Kajimura N, Mishima K, Inoue Y, Kamei Y, Kitajima T, Shibui K, Katoh M, Watanabe M, Hashimoto Y, Nakajima T, Ozeki Y, Hori T, Yamada N, Toyoshima R, Ozaki N, Okawa M, Nagai K, Takahashi K, Isojima Y, Yamauchi T, Ebisawa T: A missense variation in human casein kinase I epsilon gene that induces functional alteration and shows an inverse association with circadian rhythm sleep disorders. *Neuropsychopharmacol* 29: 1901-1909, 2004.
2. Sawamura N, Sawamura-Yamamoto T, Ozeki Y, Ross CA, Sawa A: A form of DISC1 enriched in nucleus: Altered subcellular distribution in orbitofrontal cortex in psychosis and substance/alcohol abuse. *Proc Natl Acad Sci U S A* 102: 1187-1192, 2005.
3. Sawa A, Nagata E, Sutcliffe S, Dulloor P, Cascio MB, Ozeki Y, Roy S, Ross CA, Snyder SH: Huntingtin is cleaved by caspases in the cytoplasm and translocated to the nucleus via perinuclear sites in Huntington's disease patient lymphoblasts. *Neurobiol Dis* 20: 267-274, 2005.
4. Hara MR, Agrawal N, Kim SF, Cascio MB, Fujimuro M, Ozeki Y, Takahashi M, Cheah JH, Tankou SK, Hester LD,

- Ferris CD, Hayward SD, Snyder SH, Sawa A. S-nitrosylated GAPDH initiates apoptotic cell death by nuclear translocation following Siah1 binding. Nat Cell Biol 7: 665-674, 2005.
5. Kamiya A, Kubo K, Tomoda T, Takaki M, Youn R, Ozeki Y, Sawamura N, Park U, Kudo C, Okawa M, Ross CA, Hatten ME, Nakajima K, Sawa A: A schizophrenia-associated mutation of DISC1 perturbs cerebral cortex development. Nat Cell Biol 7: 1067-1078, 2005.
 6. Fujii K, Maeda K, Hikida T, Mustafa AK, Balkissoon R, Xia J, Yamada T, Ozeki Y, Kawahara R, Okawa M, Haganir RL, Ujike H, Snyder SH, Sawa A: Serine racemase binds to PICK1: potential relevance to schizophrenia. Mol Psychiatry 11: 150-157, 2006.
 7. Kirkpatrick B, Xu L, Cascella N, Ozeki Y, Sawa A, Roberts RC: DISC1 immunoreactivity at the light and ultrastructural level in the human neocortex. J Comp Neurol 20: 436-450, 2006.
 8. Iwamitsu Y, Ozeki Y, Konishi M, Murakami J, Kimura J, Okawa M: Psychological characteristics and the efficacy of hospitalization treatment on delayed sleep phase syndrome patients with school refusal. Sleep and Biological Rhythms 5: 15-22, 2007.
 9. Matsuo M, Shiino Y, Yamada N, Ozeki Y, Okawa M: A novel SNP in hPer2 associates with diurnal preference in healthy population. Sleep and Biological Rhythms 5: 141-145, 2007.
 10. Horii H, Ozeki Y, Terada S, Kunugi H, Functional near-infrared spectroscopy reveals altered hemispheric laterality in relation to schizotypy during verbal fluency task. Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry 32: 1944-1951, 2008.

【症例報告】

欧文

1. Ozeki Y, Mizuguchi T, Hirabayashi N, Ogawa M, Ohmura N, Moriuchi M, Haradae N, Matsumoto N, Kunugi H: A case of schizophrenia with chromosomal microdeletion of 17p11.2 containing a myelin-related gene PMP22. The Open Psychiatry Journal 2: 1-4, 2008.

和文

1. 大槻秀樹, 尾関祐二, 大川匡子: 誤嚥による一過性底酸素血症後にKorsakoff症候群を呈した一例. 臨床精神医学 33: 1035-1040, 2004.
2. 藤村俊雅, 尾関祐二, 藤井久彌子, 大川匡子: 電気けいれん療法の1クルールの回数差により早期再燃と寛解維持に分かれたうつ病の症例. 精神科 8: 337-341, 2006.
3. 山原真理, 尾関祐二, 野口俊文, 大川匡子: 無けいれん型電気けいれん療法後に抗精神病薬に対するアレルギーが改善した統合失調症の一例. 臨床精神医学 35: 1237-1242, 2006.

【総 説】

和文

1. 尾関祐二, 山田尚登, 大川匡子, 澤明: 統合失調症の創薬標的分子 医学のあゆみ. 207: 55-59, 2003.
2. 尾関祐二, 大川匡子, 澤明: DISC1 と統合失調症: 治療・予防法の確立を前提とした分子病態生理の解明を目指して. 日本神経精神薬理学雑誌 24: 87-91, 2004.
3. 尾関祐二, 澤明: DISC1 を通じた精神疾患の分子生物学的理解. 脳と精神の医学 15: 293-300, 2004.
4. 定松美幸, 尾関祐二: 胎生期に発現する遺伝子と精神疾患. 臨床精神医学 33: 1439-1445, 2004.
5. 尾関祐二, 功刀浩: 精神疾患の遺伝と細胞モデル 統合失調症を中心に. 細胞工学 26: 17-21, 2007.
6. 尾関祐二: DISC1 KEY WORD精神 第4版. 198-199, 2007.

7. 尾関祐二, 功刀浩: 統合失調症に合併するうつ病. 精神科 10: 360-364, 2007.

【その他】

和文

1. 尾関祐二: (分担研究報告) 睡眠・覚醒リズム障害患者の末梢組織を用いた生体リズムの検討 (班長: 内山真) 厚生労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業 ヒト睡眠・覚醒リズム障害の分子生物学的成因解明とテーラーメイド治療法開発に関する基盤的研究 平成 15 年度研究成果報告書 40-43, 2004.
2. 尾関祐二: (分担研究報告) 睡眠・覚醒リズム障害患者の末梢組織を用いた内因性生体リズムの検討 (班長: 内山真) 厚生労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業 ヒト睡眠・覚醒リズム障害の分子生物学的成因解明とテーラーメイド治療法開発に関する基盤的研究 平成 16 年度研究成果報告書 52-54, 2005.
3. 尾関祐二: (分担研究報告) 睡眠・覚醒リズム障害患者の末梢組織を用いた内因性生体リズムの検討 (班長: 内山真) 厚生労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業 ヒト睡眠・覚醒リズム障害の分子生物学的成因解明とテーラーメイド治療法開発に関する基盤的研究 平成 17 年度研究成果報告書 53-55, 2006.
4. 尾関祐二, 藤本久彌子, 栗本直樹, 大川匡子, 辻啓子, 堀江稔, 功刀浩: 向精神薬によるQTc延長のリスクの遺伝学的評価 精神神経系薬物治療研究基金研究年報 (第 39 集) 39: 114-117, 2007.
5. 尾関祐二: (分担研究報告) 統合失調症の生物学的病態解明と予防・治療法の開発. 厚生労働科学研究費補助金「こころの研究化学事業」平成 19 年度 総括・分担研究報告書 統合失調症リスク遺伝子の探索 pp34-36, 2008.
6. 尾関祐二: (分担研究報告) 抗精神病薬と抗うつ薬のファーマコジェネティクス. 厚生労働科学研究費補助金「創薬基盤推進研究事業 (ヒトゲノムテーラーメイド研究)」平成 19 年度 総括・分担研究報告書 向精神薬によるQTc延長に関する研究 pp24-27, 2008.
7. 尾関祐二: (分担研究報告) 統合失調症の生物学的病態解明と予防・治療法の開発. 厚生労働科学研究費補助金「こころの研究化学事業」平成 20 年度 総括・分担研究報告書 統合失調症リスク遺伝子の探索 pp30-34, 2009.
8. 尾関祐二: (分担研究報告) 抗精神病薬と抗うつ薬のファーマコジェネティクス. 厚生労働科学研究費補助金「創薬基盤推進研究事業 (ヒトゲノムテーラーメイド研究)」平成 20 年度 総括・分担研究報告書 向精神薬によるQTc延長に関する研究 pp26-28, 2009.
9. 尾関祐二: (分担研究報告) 統合失調症の生物学的病態解明と予防・治療法の開発. 厚生労働科学研究費補助金「こころの研究化学事業」平成 18 年度~20 年度 総合研究報告書 統合失調症リスク遺伝子の探索 pp53-57, 2009.

翻訳

1. Werman R 著 定松美幸 訳 今井真, 内田淳子, 尾関祐二, 金井裕彦, 小西瑞穂 廣兼元太, 増井晃, 村上純一, 森田幸代, 吉村篤, 若林美香: あなたにもできる脳活性化法 一会話療法でアンチエイジングー フレグランスジャーナル 東京 2007.
2. Nilsson KR, Piccini JP 編 田口淳一 監修 尾関祐二他訳: 76 章 せん妄、79 章 薬物乱用. オスラーメディカルハンドブック 第二版 pp820-829, 851-862, 2008.

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
精神神経医学	講師	大曾根 彰	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1987年4月～現在	日本精神神経学会員		
1992年～現在	精神保健指定医		
2008年10月～現在	日本心身医学会員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. <u>大曾根彰</u> ： 人格障害のあるうつ病患者の治療と対応. 上島国利編, 精神科ニューアプローチ 2 気分障害 メジカルビュー社, 東京, pp138-144, 2005.			
【原 著】			
欧文			
1. <u>Osone A</u> , Takahashi S: Putative temperament of patients with generalized anxiety disorder: Two-years' interval test-retest reliability of a Japanese version of the Generalized Anxious Temperament. Psychiatry Clin Neurosci 60:96-102, 2006.			
2. <u>Osone A</u> , Takahashi S: Possible link between childhood separation anxiety and adulthood personality disorder in patients with anxiety disorders in Japan. J Clin Psychiatry 67:1451-1457, 2006.			
和文			
1. 高橋三郎, <u>大曾根彰</u> , 磯野友厚, 塩入俊樹: 神経遮断薬誘発性遅発性ジスキネジアのクエチアピンによる治療. 精神医学 46:49-57, 2004.			
2. 高橋三郎, <u>大曾根彰</u> , 松田晃武: 遅発性ジストニア・ジスキネジアへの投薬計画: 12症例の経験. 精神医学 47: 499-508, 2005.			
3. 室井宏文, 佐伯吉規, <u>大曾根彰</u> , 下田和孝: 成人の周期性嘔吐症の一例. 栃木精神医学 28:3-10, 2008.			
【症例報告】			
和文			
1. 渡邊崇, <u>大曾根彰</u> , 秋山一文, 下田和孝: 多剤併用からolanzapineに変更後, clonazepamの追加で遅発性ジストニアが改善した一例. 臨床精神薬理 11:1337-1342, 2008.			
2. 渡邊崇, <u>大曾根彰</u> , 秋山一文, 下田和孝: Quetiapineへの置換とfluvoxamineの減量により遅発性ジスキネジアが改善した一例. 臨床精神薬理 11:2311-2316, 2008.			

【総 説】

和文

1. 高橋三郎, 大曾根彰 : 精神症状の測定と精神科診断学. 精神科 8 : 1-5, 2006.
2. 大曾根彰 : 統合失調症の陽性症状に対する薬剤選択のジレンマ. 臨床薬理 40:133S-134S, 2009.
3. 大曾根彰, 下田和孝 : 精神科の薬物治療アルゴリズム. こころの科学 143:91-97, 2009.

【そ の 他】

和文

1. 大曾根彰 : 抗うつ薬の副作用. 今日の治療指針 第51版 医学書院, pp738, 2009.

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
精神神経医学	講師	小杉 真一	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1989年5月～現在 1998年10月～現在	日本精神神経学会員 精神保健指定医		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【原 著】			
【症例報告】			
【総 説】			
和文			
1. 下田和孝, <u>小杉真一</u> , 室井秀太, 鈴木武士, 森田幸代: 身体疾患患者に対する向精神薬投与に際しての留意点. 総合病院精神医学 16: 11-17 2004.			
2. 鈴木武士, 仲谷誠, 室井秀太, 下田和孝, <u>小杉真一</u> , 平田幸一: 痴呆を中心とした老年期の心の病気について. 心と社会 35: 80-86 2004.			
【そ の 他】			
和文			
1. <u>小杉真一</u> , 下田和孝: Tourette Disorder の薬物療法について. 臨床精神薬理 8:528-530, 2005			
2. <u>小杉真一</u> , 下田和孝: パーキンソン病/症候群治療薬で、幻覚・妄想、せん妄などの精神神経系副作用が出現しにくいものはどれか? 臨床精神薬理 9: 245-246, 2006.			
3. 秋山一文, 室井秀太, 佐伯吉規, 斎藤淳, <u>小杉真一</u> , 下田和孝: 新規抗精神病薬へのスイッチング-遅発性運動障害の治療の視点から- 臨床精神薬理、9: 851-861, 2006.			
4. 秋山一文, <u>小杉真一</u> , 室井秀太, 下田和孝: 抗精神病薬による遅発性錐体外路症状治療のアルゴリズム. 統合失調症の治療手順-薬物療法のアルゴリズム-改訂版(精神科薬物療法研究会編)、医学書院 73-93, 2006.			

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
精神神経医学	講師	佐伯 吉規	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
2001年7月～現在	日本総合病院精神医学会員(2007年5月～現在 専門医)		
2005年6月～現在	日本救命救急医学会員		
2005年7月～現在	日本ペインクリニック学会員		
2006年5月～現在	日本精神神経学会員(2007年10月～現在 専門医)		
2006年5月～現在	日本臨床精神薬理学会員		
2006年7月～現在	日本サイコオンコロジー学会員		
2007年8月～現在	臨床研修指導医		
2009年2月～現在	精神腫瘍学都道府県指導者		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
Saeki Y, Watanabe T, Ueda M, Saito A, Akiyama K, Inoue Y, Hirokane G, Morita S, Yamada N, Shimoda K: Genetic and pharmacokinetic factors affecting the initial pharmacotherapeutic effect of paroxetine in Japanese patients with panic disorder. European Journal of Clinical Pharmacology 65:685-691, 2009. Epub 2009 Mar 4.			
【著 書】			
和文			
1. <u>佐伯吉規</u> : 薬剤による精神障害. 山口 徹, 北原光男, 福井次矢編, 今日の治療指針2007 私はこうして治療している 医学書院, pp688-699, 2007.			
【原 著】			
欧文			
1. Watanabe T, Ueda M, <u>Saeki Y</u> , Hirokane G, Morita S, Okawa M, Akiyama K, Shimoda K: High plasma concentrations of paroxetine impede clinical response in patients with panic disorder. Ther Drug Monit 29:40-44, 2007.			
【症例報告】			
和文			
1. 渡邊 崇, 上田幹人, 鮎瀬 武, 石黒 慎, <u>佐伯吉規</u> , 下田和孝: パニック発作を呈した甲状腺機能低下症の一例. 精神科治療学 23: 1013-1017, 2008.			
【総 説】			
和文			
1. <u>佐伯吉規</u> , 下田和孝: 精神科薬物療法の基本 抗うつ薬. 月刊精神科 6: 430-436, 2005.			
2. <u>佐伯吉規</u> , 仲谷 誠, 下田和孝: 統合失調症の認知機能, QOL ～非定型抗精神病薬が果たす役割とは～. 臨床精神薬理 9: 389-395, 2006.			
3. <u>佐伯吉規</u> , 下田和孝: がん患者の心理的ケア(サイコオンコロジー)について. 獨協医学会雑誌 33: 213-217, 2006.			

4. 佐伯吉規, 濱口眞輔, 下田和孝: 修正電気けいれん療法. Mebio 24: 39-50, 2007.
5. 渡邊 崇, 上田幹人, 佐伯吉規, 下田和孝: 不安障害のオーダーメイド薬物療法の可能性 パニック障害を中心に. 精神神経学雑誌 110: 633-638, 2008.
6. 萩野谷真人, 佐伯吉規, 下田和孝: 新しい抗うつ薬の薬理学. 総合臨床 56: 2758-2760, 2008.

【その他】

和文

1. 佐伯吉規, 下田和孝: 向精神薬による口渇に対してどのような対処法があるのか. 臨床精神薬理 8: 1727-1728, 2005.
2. 佐伯吉規, 森田幸代, 下田和孝: 妊娠8ヶ月の妊婦。境界性人格障害にて外来通院中の患者。フルニトラゼパム 2mg, トリアゾラム 0.25mgを眠前投与している。出産にむけて中止あるいは変更した方がよいか? . 臨床精神薬理 9:1185-1187, 2006.
3. 渡邊 崇, 上田幹人, 佐伯吉規, 廣兼元太, 森田幸代, 大川匡子, 秋山一文, 下田和孝: パニック障害に対する paroxetineの初期治療反応性と血中濃度との関連. 精神薬療研究年報 38:155-159, 2006.
4. 石黒 慎, 佐伯吉規, 渡邊 崇, 下田和孝: 大うつ病性障害に対してあるSSRIが無効であった場合、他の新規抗うつ薬への切り替えは有効であるのか? . 臨床精神薬理 10: 1455-1456, 2007.
5. 石黒 慎, 佐伯吉規, 森田幸代, 下田和孝: クロナゼパム投与中の患者が妊娠した。投与を中止すべきか? 臨床精神薬理 10:91-92, 2007.

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
精神神経医学	講師	藤井 久彌子	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1997年3月～現在	日本生物学的精神医学会員		
1999年11月～現在	精神保健指定医		
2000年9月～現在	北米神経科学会員		
2003年5月～現在	日本精神神経学会員 (2006年4月～現在 専門医・指導医)		
2006年4月～2007年3月	精神保健福祉審査委員		
2006年9月～現在	日本医師会認定産業医		
2006年9月～現在	日本総合病院精神医学員 (電気けいれん療法実技講習会 受講)		
2007年8月～現在	臨床研修指導医		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
<p><u>Fujii K</u>, Maeda K, Hikida T, Mustafa AK, Balkissoon R, Xia J, Yamada T, Ozeki Y, Kawahawa R, Okawa M, Haganir RL, Ujike H, Snyder SH, Sawa A: Serine Racemase Binds to PICK1: Potential Relevance to Schizophrenia. Mol Psychiatry. 11:150-157. 2006.</p>			
【著 書】			
和文			
<p>1. <u>藤井久彌子</u>: 精神科 2. 気分障害. 必携 女性の医療学—外来で役立つ実践ガイド— p781-783, 2007.</p> <p>2. <u>藤井久彌子</u>: 精神科 7. アルコール依存. 必携 女性の医療学—外来で役立つ実践ガイド— p795-797, 2007.</p>			
【原 著】			
欧文			
<p>1. Kato T, Iwayama Y, Kakiuchi C, Iwamoto K, Yamada K, Minabe Y, Nakamura K, Mori N, <u>Fujii K</u>, Nanko S, Yoshikawa T: Gene expression and association analyses of LIM (PDLIM5) in bipolar disorder and schizophrenia. Mol Psychiatry. 10:1045-1055, 2005.</p> <p>2. Kakiuchi C, Ishiwata M, Nanko S, Kunugi H, Minabe Y, Nakamura K, Mori N, <u>Fujii K</u>, Umekage T, Tochigi M, Kohda K, Sasaki T, Yamada K, Yoshikawa T, Kato T: Functional polymorphisms of HSPA5: Possible association with bipolar disorder. Biochem Biophys Res Commun. 336:1136-1143, 2005.</p> <p>3. Munakata K, <u>Fujii K</u>, Nanko S, Kunugi H, Kato T: Sequence and functional analyses of mtDNA in a maternally inherited family with bipolar disorder and depression. Mutat Res 617:119-124, 2007.</p> <p>4. Kakiuchi C, Ishiwata M, Nanko S, Kunugi H, Minabe Y, Nakamura K, Mori N, <u>Fujii K</u>, Yamada K, Yoshikawa T, Kato T: Association analysis of ATF4 and ATF5, genes for interacting-proteins of DISC1, in bipolar disorder. Neurosci Lett: 316-321, 2007.</p> <p>5. Kakiuchi C, Ishiwata M, Nanko S, Kunugi H, Minabe Y, Nakamura K, Mori N, <u>Fujii K</u>, Umekage T, Tochigi M, Kohda K, Sasaki T, Yamada K, Yoshikawa T, Kato T: Association analysis of HSP90B1 with bipolar disorder.</p>			

J Hum Genet52:794-803, 2007.

6. Hikida T, Mustafa AK, Maeda K, Fujii K, Barrow RK, Saleh M, Haganir RL, Snyder SH, Hashimoto K, Sawa A: Modulation of D-serine levels in brains of mice lacking PICK1. Biol Psychiatry63:997-1000, 2008.

【症例報告】

和文

1. 藤村俊雅、尾関祐二、藤井久彌子、大川匡子：電気けいれん療法の1クールの回数差により早期再燃と寛解維持に分かれたうつ病の症例. 精神科 8:337-341, 2006.

【総 説】

和文

1. 藤井久彌子、澤明：統合失調症の病態生理の理解と新規薬物への可能性. 医学のあゆみ 208:143-145, 2004
2. 藤井久彌子、下田和孝：特集うつ病：うつ病の薬物療法. 月刊Mebio 24:30-37 2007
3. 藤井久彌子、下田和孝：特集高齢者と薬物療法（臨床薬理学的観点から）高齢者の薬物療法の問題点—精神科領域疾患. 臨床薬理 39:18-24, 2008

【そ の 他】

1. 藤井久彌子、下田和孝：最新・薬物療法の実際 軽症うつ病における薬物療法. Clinic Magazine 469:30-34, 2008